

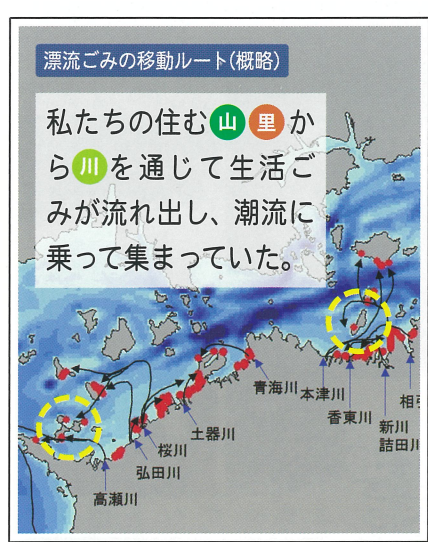
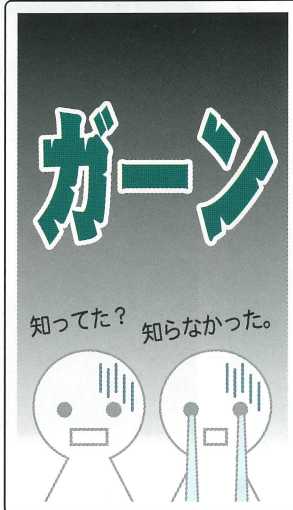
# かがわ里海かわら版

・SATOUMI・

Vol.2



私たちが出したごみ、  
その行方とは!?



海のごみには、  
どんなものがあるの？

見つかる場所によって  
「海岸ごみ」「漂流ごみ」「海底ごみ」と  
名前は変わりますが  
これらをまとめて「海ごみ」と  
呼んでいます。



瀬戸内海の「海ごみ」は  
その多くが実は沿岸に住む  
私たちが出した  
生活ごみなのです。



# まったく新しい旅のカタチ

体験

交流

食

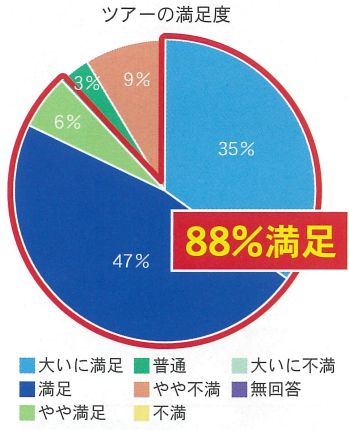
文化

# 離島の海ごみツアー

ごみ拾いで満足するの、なぜ!?

一見相容れない旅行と海岸のクリーン活動が一つになったのが「離島の海ごみツアー」です。実際に参加者した方々へのアンケート調査結果には、満足度の高さが見受けられました。

わざわざお金を払ってまで離島に行っごみ拾いまでしたいと思わせるこのツアーにはヒミツがあるに違いない。そのヒミツに迫ります。



## 教えて!! 離島の海ごみツアー

「里海づくり」をキーワードに  
民・学・官が「つながる」

(学)香川大学  
学生プロジェクト「またたび」眞方さん  
自分たちに何が出来るだろう?  
そんな想いで作った「旅のしおり」

私が担当した女木島には、これまで観光地という印象しかありませんでした。しかし、実際に行ってみると、着いた港付近のきれいに比べ、クリーン活動をする海岸のごみの多さにびっくり。潮流等の関係で漂着しやすいという話は聞いていましたが、実際にこの目で見るとまでは実感がありませんでした。



▲大学生が作った旅のしおり

## ～女木島編～ ごみ拾いはスポーツだ! 女木島クリーンアップ運動会



地元の方々が事前に草刈りしてくれた坂道を参加者みんなでごみ袋のバケツリレー。回収したごみの量は113袋・470kg!!

## 交流 海岸クリーン活動



ごみ拾いに「スポーツ」の要素を加え、集めるごみの種類と量で得点が加算される方式でチーム毎に得点を競いながら、一生懸命集めました。もちろん、成績上位者には賞品も。協力企業や地元から海の幸など盛りだくさんの表彰式。

このツアーで初めて会った県内外の人がチームを組み、同じ目標に向かって力を合わせる。このツアーで得た達成感や爽快感、チームメイトとの交流などが、次もこのツアーに参加したいという気持ちに繋がっていくのかもしれない。



随分スッキリ!

(民)JTBC中国四国 高松支店 山田さん  
見どころは、離島で味わう里海の素晴らしい  
最初は、海ごみを拾いにお客様がお金を払ってまで来てくれるのか不安でした。  
しかし、世界の宝石ともいわれている瀬戸内海が舞台であること、人々の交流が失われてきた今だからこそ、島での体験は貴重に思えるハズです。



会議室でも...



外でも...  
ツアーづくりの様子

(官)香川県環境森林部環境管理課 大倉さん  
海ごみ↓資源!?

過疎・高齢化が進む島。そして、海ごみが大量に打ち上げられる海岸。ここに、海ごみをきっかけに逆に人を呼ぶことが出来ないだろうか。発想の転換から生まれたのが、離島の海ごみツアーでした。

## ～栗島編～ ビーチクリーンアップ& ワークショップ 海ごみアート!?

体験 海岸クリーン活動

ビーチクリーンアップ&ワークショップは、海岸のごみ拾いをしながら、貝殻や面白そうなお宝など自分にとっての「お宝」を拾い集めてアート作品に変身させようというもの。集めたお宝を使って思い思いの作品づくりに熱が入ります。楽しみながら海ごみと向き合うことで、私たちの身の回りのごみについて考えることのできる体験となりました。



講師は、栗島芸術家村の「第3回アーティスト・イン・レジデンス2011秋」で活躍した森田 洋典(もりたひろみ)さん

(写真 右中、右下)ワークショップの作品(フォトフレーム)

この日、回収したごみの量は44袋・89kgでした。



# 海岸 クリーン活動



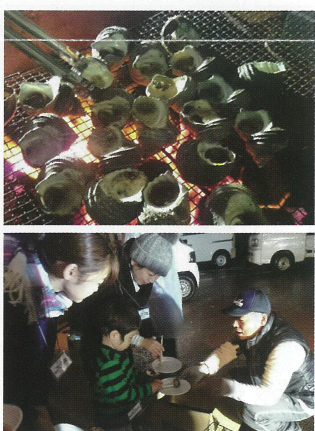
**食** **交流** **新鮮・美味の海の恵み** **と優しさ**

**ヒミツ** **瀬戸内の魅力、発見!!**

地元の漁師さんたちが、海岸のクリーン活動のお返しとばかりに私たちにふるまってくれたのは、島で採れた新鮮な海の幸でした。大皿に盛り付けられた新鮮なお刺身に舌鼓。漁師さんが慣れた手つきで魚をさばく姿に、参加者からは歓声があがる一幕も。一緒に海の幸を味わいながらの島の皆さんとの交流は、貴重な体験のひとつです。



地元漁師さんのお魚さばき方講習



漁師さんと一緒にサザエをバーベキューでいただく

## 本島で歴史と文化を感じる

**文化** 本島は、大小28の島々からなる塩飽(しわく)諸島の中心の島で、周囲はわずかに約16kmほど。戦国時代に活躍した塩飽水軍の本拠地でもあった島には、古い建物が残り「街並み保存地区」に指定されています。



## 粟島でアートをを感じる

**文化** スクリューのような形をした粟島。その丁度へそにあたる場所にある郵便局。この場所にはかつてたくさん物・事・人が集まりました。平成25年の瀬戸内国際芸術祭でアート作品として旧粟島郵便局舎を利用して創られ、宛先不明の手紙が集まるという不思議な郵便局です。



このツアーのために漂流郵便局を開けてくれた地元の中田局長

## イノシシ海を渡る!? 男木島

**体験** 女木島と隣合わせにある男木島。灯台にあるキャンプ場では、一面がイノシシ被害に。島の方から7年ほど前に泳いできたイノシシから始まり今では2、3百頭もいるイノシシによる被害の話が聞けるのも、貴重な島体験のひとつ。



## ごみを資源にした海ごみツアー、でも本当はごみなんか無い方がいい...

もともと島の人の人たちのごみでは無かった海岸のごみ。拾い集めた海ごみの多くはペットボトルやビニール袋などの生活ごみでした。島をきれいにしてくれるのが嬉しいと、島民のみなさんは笑顔で私たちを迎え温かくもてなしてくれました。島民との触れ合い、貴重な島体験を通して、参加者からは「島の人の為にも海ごみを減らしたい」という声も聞かれました。

## 里海づくりは人と人とのつながり「づくり」

さぬき市・鴨部川流域では、上流から下流、そして海までのネットワークを形成し、協力して環境保全活動を行うことで、流域全体の環境改善を目指す取り組みを進めています。

取り組みの一環として、「かがわの里海づくり 鴨部川流域見学ツアー」を実施しました。川の上流、中流、下流域の環境保全活動団体や漁協、大学、地元のさぬき市、県が参加し、バスで河口付近の海岸から源流付近にある来栖溪谷を目指しました。その途中の各地域で、活動されている方々のお話を聴き、水質測定やごみの観察を行いました。

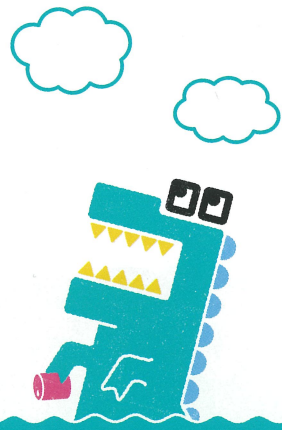


最後は、上流域の前山でまとめの会。参加者の中には上流域を訪れたことがない方も多く、鴨部川源流である来栖溪谷の美しさに驚いたという感想が。また、川のごみが意外と少なかったという感想や、山や川からの栄養を、きちんと海へ届けていくことが重要だという声も。このツアーを通じて参加者の結束が強まりました。

その後も各団体は、地域の行事に協力し合うといった話し合いを続けていきます。



鴨部川源流の来栖溪谷





# 里海づくりのStep!

海から、私たちのライフスタイルや社会を見つめ直そう。  
 かがわの里海づくりは、私たち一人ひとりが、できることを  
 見つけ、実践し、そして、それらをつなげていく取り組みです。

## Step1 気づく

「私」と「海」の  
 つながりに気づく。



## Step2 知る(学ぶ)

私たちが暮らす社会全体と海のつながりの  
 しくみを知る。



## Step3 やってみる

一人ひとりができることを実践する。

地元の海の幸、  
 山の幸を食べよう!



里海の良さを  
 伝えよう!



モノを大切に  
 使うようにしましょう!



竹の伐採ボランティアに  
 参加しよう!



## Step4 つなげる

それぞれの取り組みを点とすれば、  
 それらをつなぎ合わせ、点から線、そし  
 て面へ。

県全域、更には瀬戸内海全域へとつ  
 なげていくことで、私たちの里海であ  
 る瀬戸内海が豊かな海に再生し、私  
 たちの暮らしや社会も豊かなものにな  
 っていくことでしょう。



海のない市や町も参加する全国初の取り組み!

## ～香川県方式 海底ごみの回収・処理システム～



漁業者が、底びき網漁  
 等で網にかかった海  
 底ごみをボランティア  
 等で陸に持ち帰り漁  
 協等で保管



行政(沿岸市町と県)  
 が運搬・処理



行政(内陸部を含めた  
 全市町と県)が処理費  
 用を負担

